

電子メール

山田 祥平

パソコン通信サービスも、インターネット時代に入った。ニフティサーブ、PC-VAN、アスキーネット、ASAHI ネット、PEOPLE などの大手パソコン通信サービスも、続々とインターネットのへ接続を開始した。

【 パソコン通信を再考する 】

ぼくらがPC-VAN やニフティサーブといった大手のパソコン通信を使う場合、手元のパソコンは、単なる端末をエミュレートしているにすぎない。近頃の通信ソフトはとても高機能なので、自動的にダイヤルしてくれたり、前もって指定しておいた内容に従って自動運転してくれたり、そして、その通信内容を手元のディスクにログとして記録してくれるといった機能を持っているが、基本的には、キーボードとシリアルポートを常に監視し、キーボードから入力があればそれをシリアルポートに送り、シリアルポートに入力があれば、それを画面に表示するという仕事を一生懸命やってくれているにすぎない。

また、パソコン通信をすることを、ネットワークしていることと同じと考えるケースは少なくないのだが、実のところ、ここというネットワークは、パソコン通信を通じて知り合うことのできる人間と人間の間の有機的なつながりのことを指している。そして、それは、コンピュータ的な意味でのネットワークにはほど遠い形態であることを、まず頭に置いておいてほしい。

パソコン通信サービスを提供する企業、すなわちPC-VAN やニフティサーブなどは、とりあえずホストコンピュータを用意する。このコンピュータは1台しかないかもしれないし、もしかしたら100台

以上あるかもしれない。どっちにしても、使うぼくらの側から見れば、ニフティサーブという1台の巨大なコンピュータに見える。彼らは、そのコンピュータをユーザーに対して時間貸ししていると考えればいだろう。

サービスの会員となったぼくらは、公表されている電話番号にダイヤルし、電話回線を通じて手元のパソコンとホストコンピュータを接続する。このときにつながる物理的な「線」はNTTのものだけかもしれないし、地方のアクセスポイントを利用している場合には、どこかの回線業者の提供している専用線が介在するかもしれない。日本テレコムなどのNCC業者の回線を經由するケースもある。いや、東京のセンター直通の回線にダイヤルする場合でも、専用線が間に介在する可能性は高い。なぜなら、ダイヤルした場所にホストコンピュータが設置されているとは限らないからだ。いずれにしても、こうして手元のパソコンとサービス側のホストコンピュータが物理的につながったことを確認し、ぼくらは、自分が正当にそのホストコンピュータを使うユーザーであることを証明するためにユーザーIDとパスワードを入力する。

ここから先は、言ってみれば、手元のパソコンでホストコンピュータをリモートコントロールしているにすぎない。フォーラムめぐりをして会議室をのぞき、他のユーザーが書き込んだメッセージを読む。必要に応じて自分もメッセージを書き込む。このとき動いているのはホストコンピ

ュータ上の会議システムというアプリケーションであり、読み出したり書き込んだりするメッセージは、すべてホストコンピュータ上に蓄積される。手元のパソコンで動いているのは単なる通信ソフトであって、データの送受信を引き受けているだけだ。

このように、パソコン通信サービスのホストコンピュータ上で使える典型的なコミュニケーション用アプリケーションの、最も原始的な形態は電子掲示板だ。各サービスで、フォーラムとかSIGとか電子掲示板と呼んでいるものは、その発展したものにすぎない。こうしたことから、電子掲示板機能を中心に提供するホストコンピュータのことを Bulletin Board System の頭文字をとってBBSと呼ぶ。まれに頭にComputerを付けてCBBSと呼ぶこともあるようだ。

【 BBSの巡回 】

PC-VAN とニフティサーブの両方の会員であるユーザーは、その両方で電子メールを受け取る可能性がある。電子メールは郵政省を經由した郵便とは違い、自宅まで配達してくれるわけではない。電子メールメッセージもまた、電子会議のメッセージと同様に、ホストコンピュータ上に蓄積されるのだ。違うのは、会議メッセージが不特定多数に向けたもので、会員なら誰でも読めるようになっていたのに対して、電子メールは宛先本人にしか読むことができない点だ。そこで、ぼくらは通信ソフトを使って個々のホストコンピュータをアクセスし、自分にメールが届いているかどうかを確かめなければならない。そのために、ぼくらは自分が会員になっているBBSを巡回し、

自分宛のメールが届いていないかを1つずつチェックすることを日課にしているわけだ。

このような巡回を強いられるのは、基本的にBBSが孤立したホストコンピュータであるからだ。ホストという閉じた世界の中で、電子会議が進行し、ユーザー間で電子メールが交わされる。パソコン通信の黎明期には、それでも十分だった。が、個々のBBSが、互いに接続され、情報をやりとりできるようになったらどうだろう。たとえばニフティサーブとPC-VANは、双方とも約60万人の会員を抱える巨大BBSだが、両方のホストコンピュータが互いに接続されていれば、どちらかの会員になることで、120万人の会員とコミュニケーションできる環境が整うことになる。ただし、ここでは、両方の会員になっているユーザーの重複は考えない。

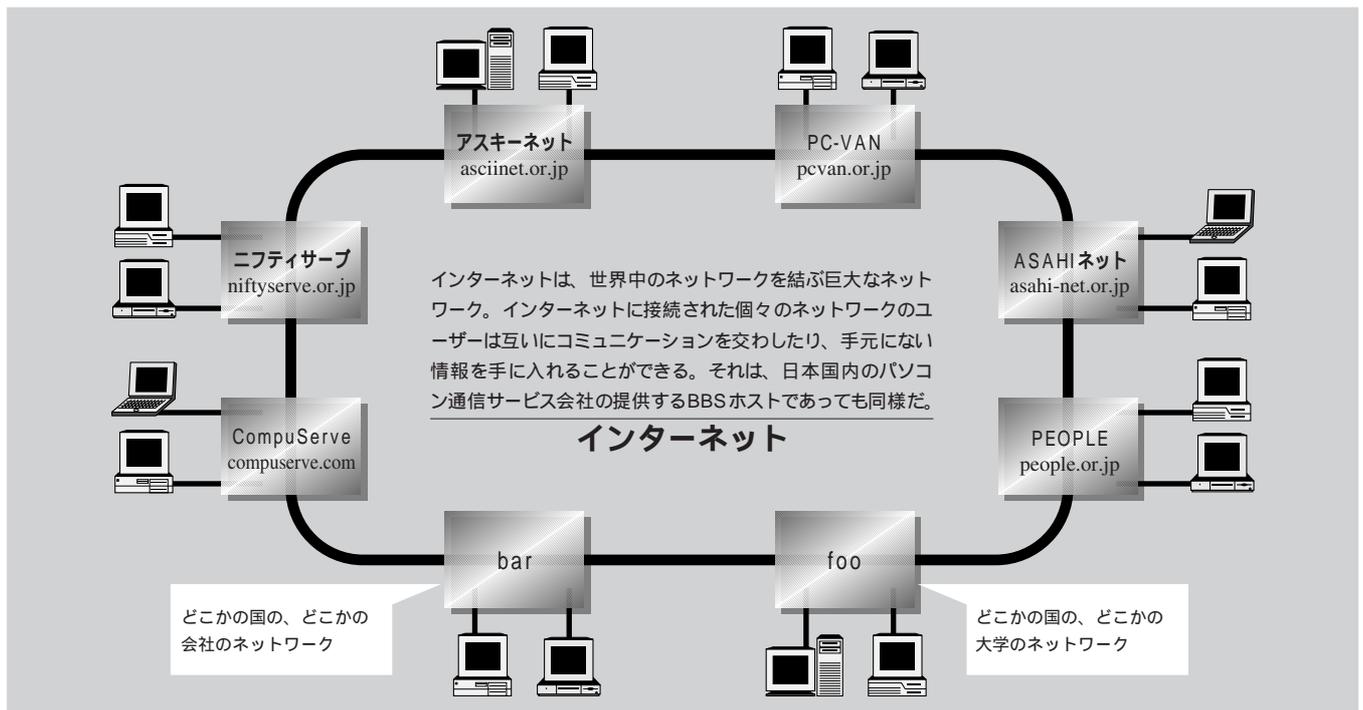
その一方で、コンピュータを使ったコミュニケーションは、こうしたBBSだけで行われているわけではない。企業や大学などの単位でも、その組織に属するユーザーが、何らかの方法で、コンピュータを利用したコミュニケーションを実現している。彼らもまた、一般のBBSの会員とコミュニケーションしたい場合には、1人1人がその会員になり、自分でそのホストにログインしなければならない。が、その組織がコミュニケーションのために使っているコンピュータが大手のBBSと相互に接続され、情報のやりとりが可能であれば、組織内だけのコミュニケーションに閉じこめられることはなくなる。

すなわち、これがインターネットだ。昨年から今年にかけて、大手の商用パソコン通信サービスは、こぞってインターネットに接続し、年内には、ほとんどのサービスで、その本格的な運用環境が整う。

インターネットに接続しているのは、こうした大手のBBSだけではなく、先に例に挙げた企業や大学などの組織もあれば、パソコン1台で運用されているような草の根BBSもある。もちろん個人のパソコンをインターネットに接続しているケースも少なくない。こうしてインターネットでつながっているコンピュータの数は約200万台。ユーザー数にして2000万人に達するといわれている。つまり、ぼくらは、パソコン通信でインターネットに接続されたBBSを利用できるというだけで、2000万人の人間とコミュニケーションする手段を得たことになるわけだ。

インターネットを体感する

とりあえず、普通のパソコン通信ユーザーが、自分の利用しているBBSがイン



ターネットに接続されていることを実感するには、他のBBSのユーザーに電子メールを出してみるといいだろう。2つのBBSの会員であるなら、自分から自分に電子メールを出してみれば、確実にそれが到着する事実を自分の目で確認することができる。

実は、ニフティサーブとPC-VANの間では、この2つのBBSがインターネット接続される以前から、電子メールの相互接続の実験が行われていたし、それは今でもサービスの1つとして継続されている。そのサービスの存在をご存じの熱心なユーザーも少なくないのではないだろうか。が、その影響で、この2つのBBSの間では、インターネットを経由しての電子メールのやりとりはできない。したがって、本来のインターネットを体感するには、他のBBSや組織を探さなければならない。

BBSの会員であれば、そのBBS内で1つだけのユーザーIDが発行され、それが名前代わりになっているはずだ。自分で自分につけるニックネームであるハンドルという概念もあるが、こちらが複数のユーザーで重複する可能性があるのに対して、ユーザーIDはすべてのユーザーで異なっている。

同様に、インターネット内でも、BBSや組織などを識別するために、あなただけの名前が必要だ。これをドメイン名という。たとえば、本誌を発行している株式会社インプレスは、組織内でネットワークを構築し、その中でコミュニケーション

のためにもコンピュータを使っている。そして、さらにインターネットにもつながっている。ドメイン名は impress.co.jp だ。このドメイン名は、インターネット内で唯一のものである。impress は社名に由来するものであり、co は company、すなわち企業であることを示す。また、jp は日本を表している。

同様に、ニフティサーブは、niftyserve.or.jp というドメイン名を持っているし、PC-VAN なら、pcvan.or.jp だ。or というのは organization に由来するもので、その他の組織を表す。パソコン通信サービス業者は、かならず or という属性を持つことになっている。なお、日本におけるドメイン名の割り当ては、日本ネットワークインフォメーションセンターという組織が行っていて、インターネットに接続する各組織は、かならず前もって申請し、インターネット内で唯一となるドメイン名を取得しなければならない。

ドメインにはコンピュータが1台しかないかもしれないし、何千台ものコンピュータが相互に接続された大規模なネットワークであるかもしれない。が、ぼくらが使っているBBSホストは、とりあえず、1台の巨大なコンピュータであると考えて差し支えない。

ドメインに属するユーザーは、かならずユーザーIDを持っている。そのIDとドメイン名を@マークでつないだものがインターネット上のフルネームとなる。もちろん世界にひとつしかない。世界に2000万人

ものユーザーがいるのだから、GCE03661 などという単純なIDの持ち主は何人かいそうなものだが、これがニフティサーブというドメインの中で一意であることが保証されている以上、GCE03661@niftyserve.or.jp というフルネームで書けば、それは世界中でも唯一のものであることが保証されるのだ。同様に、商用BBSのひとつであるASAHIネットなら、asahi-net.or.jp というドメイン名を持っている。ASAHIネットのユーザーである qj5s-ymd なら qj5s-ymd@asahi-net.or.jp となる。

インターネットに接続されたドメインに属するユーザーに電子メールを出すには、メールの宛先として、ユーザーIDとドメイン名を@マークでつないだフルネームを指定すればいい。これがインターネットメールアドレスだ。

電子メールの宛先にインターネットアドレスを指定する方法は、そのBBSのメールシステムの仕様によって少しずつ異なっている。ASAHIネットのように、通常のメール送信と同様、直接インターネットアドレスを書けばいいところもあれば、ニフティサーブのように、先頭に、INET: をつけ、明示的にインターネットアドレスであることを示さなければならないところもある。PC-VANの場合なら、INET# を先頭につける。BBSごとに違うので、ちょっとややこしく感じるかもしれない。やはり、ASAHIネットの方法が理想的だ。代表的なBBS相互の電子メールの宛先

パソコン通信サービス間での電子メールの送受信の方法

		To:				解説
		ニフティサーブ	PC-VAN	ASAHIネット	PEOPLE	
From	ニフティサーブ	id	PCV>id	INET:id@asahi-net.or.jp	INET:id@people.or.jp	INET: を頭につけてメールアドレスを指定する。
	PC-VAN	Nifty#id	id	INET#id@asahi-net.or.jp	INET#id@people.or.jp	INET# を頭につけてメールアドレスを指定する。
	ASAHIネット	id@niftyserve.or.jp	id@pcvan.or.jp	id	id@people.or.jp	直接、相手のメールアドレスを指定する。
	PEOPLE	id@niftyserve.or.jp	id@pcvan.or.jp	id@asahi-net.or.jp	id	直接、相手のメールアドレスを指定する。

指定の方法を別表にまとめておいたので参照してほしい。

実は、この原稿のために、各BBSのオンラインマニュアルを検索し、インターネットメールに関する情報を集めたのだが、電子メール関連のマニュアルとインターネット関連のマニュアルに情報が分散し、ひどく手間がかかった。また、そのBBSから外にメールを出すための宛先指定は解説されていても、外からメールをもらう場合に、どのようなアドレスを指定してもらえばいいのかという情報がまるでないのには困った。

たとえば、ASAHI ネットのユーザーが外にメールを出すと、差出人のメールアドレスは、id@j.asahi-net.or.jp となって相手に届く。しかし、このユーザーに外からメールを出す場合にはjを省くことができるのだ。jは、ASAHI ネット内のホストコンピュータの名前、あるいはサブドメイン名であると思われる。この場合は、どちらでも届くから結果オーライだが、1文字違うだけで、インターネット内を迷子になってさまよう電子メールが出てくることを考えると、こうした食い違いを避ける努力があってもいいのではないかと思う。

このことから分かるように、インターネットを経由して外に電子メールを発信する場合は、そのメールアドレスを1文字たりとも間違えないように注意しなければならない。入力ミスをしたアドレスが実在すれば、それは、そのユーザーに届いてしまうし、実在しない場合は、インターネットに不要なデータ伝送の負荷をかけることになるからだ。特に、最後のjpを付け忘れた場合には、そのメールが世界中をさまようことにもなりかねない。同じBBS内で電子メールをやりとりする場合は、存在しないIIDをシステムがチェ

ックして、その場ではねるが、2000万人ものメールアドレスをBBSのホストが知っているわけではない。メールアドレスが正しいものであるかどうかはチェックされないままに、とりあえず、外に向かって流れていくのだ。

また、メールのタイトルに相当するサブジェクトについては、相手のドメインによっては、漢字を識別できないケースがあるので、その可否が不明の場合には、ローマ字や簡単な英語を使うなど、1バイト文字の欧文だけで記入するようにしよう。

こうして、世界中の2000万人のユーザーと電子メールでコミュニケーションできる環境が整った。これから考えなければならないのは、この環境をどのように使い、どのように生かしていくかである。

とりあえず、他人に自分の電子メールアドレスを伝える場合には、自分が最も頻繁にアクセスするBBSのものだけを教えるようにしよう。ニフティサーブならこれ、PC-VANならこれといった具合に、複数のアドレスを教えてしまうと、今までどおり、メールチェックのためだけにBBS巡回を日課にしなければならない。電子メールが到着するBBSを1つに限定したほうが効率がいいのはいうまでもない。

パソコン通信ユーザーがインターネットと関わる手段には、メールのほかにもいろいろなものがあるが、単純にメールのやりとりが可能になるだけでも、ぼくらは、膨大な情報の入手手段を手にしたことになる。次回は、その利用のバリエーションについて詳細に紹介していくことにしよう。

ニフティサーブからインターネットにメールを送信する例

<pre>> go mail 電子メール (1:受信 2:送信 3:送信簿 0:その他 E:終了) > 2 本文 (300 行まで 終了は行頭で/E)</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • メールシステムに入る • 送信の選択
<pre>インターネットマガジンの、 創刊おめでとうございます。 これはお祝いのメールです。</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • 本文の入力
<pre>/E 83バイト 5行です 修正 (1:修正する 2:しない) : 2</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • 本文入力の終了 • 修正はしない
<pre>題名 (漢字で20文字まで) : Congratulation</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • 題名を入力
<pre>確認 Congratulation (1:OK 2:NG) : 1</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • 確認
<pre>宛先 (IDか同報グループ名又は FAX番号 改行で終了) : INET:imagazine@impress.co.jp</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • 頭に INET: をつけて • インターネットアドレスを入力
<pre>確認 INET:imagazine@impress.co.jp (1:OK 2:NG) : 1</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • 確認
<pre>宛先 (IDか同報グループ名又は FAX番号 改行で終了) : 送信 (1:送信する 2:しない) : 1</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • 改行のみで宛先入力の終了 • 送信の指示
<pre>- 送信完了 - 電子メール (1:受信 2:送信 3:送信簿 0:その他 E:終了)</pre>	



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp